

神社・お寺の紹介

位置はチラシのマップでご確認ください。

① 笠稲稲荷神社 (かさのぎいなりじんじゃ)



笠をかぶった人が神前を通ると、自然に笠が脱げ落ちたことから「笠脱稲荷」と呼ばれるようになり、その後「笠稲稲荷」と改称されました。板碑・節分追難式(いたび・せつぶんついなしき)の文化財を有しています。

② 良泉寺 (りょうせんじ)



横浜開港当時、幕府からこの寺を外国人の宿舎にするように命令されましたが、住職と総代は話し合っって屋根をわざとはがし、修理中だといって断ったといわれています。

③ 能満寺 (のうまんじ)



鎌倉時代、この地に住む内海新四郎光善(うつみしんしろうみつよし)という人が、海の中から現れた菩薩像(ぼさつぞう)を拾い、お寺を建ててまつたのがはじまりだといわれています。

④ 神明宮 (しんめいぐう)



一説に鎌倉時代に創建されたといわれています。かつて当地を流れていた上無川に牛頭天王(ごずてんのう)のご神体が現れたので、洲崎大神(すさきおおかみ)と神明宮に牛頭天王をまつたという言い伝えもあります。

⑤ 東光寺 (とうこうじ)



小田原北条氏の家臣、平尾内膳(ひらおないぜん)がつくったといわれるお寺です。本尊の薬師如来像は内膳の守護仏で、江戸城を築いたことで知られる太田道灌(おおたどうかん)から授かったという説もあります。

⑥ 熊野神社 (くまのじんじゃ)



もと権現山にあり、平安時代に紀伊の熊野権現を招いたことによる、といわれています。現在の社殿は戦後再建されたものですが、境内にはイチョウの古木などが残っています。

⑦ 高札場 (こうさつば) [神奈川地区センター]



幕府のおきてや決まり事などを人々に伝えるための重要な場所でした。江戸時代の高札場は、神奈川警察署西側付近にありました。現在は、神奈川地区センターの前に復原されています。

⑧ 成仏寺 (じょうぶつじ)



横浜開港当時、アメリカ人宣教師の宿舎に充てられました。ヘボンは本堂に、ブラウンは庫裏(くり)に住んだといわれています。

⑨ 慶運寺 (けいうんじ)



横浜開港当時は、フランス領事館に充てられました。現在は「浦島寺」とも呼ばれ、浦島太郎が竜宮城に行ったときに乙姫様から授かったという菩薩像(ぼさつぞう)などが伝わったといわれている浄土宗寺院です。

⑩ 浄瀧寺 (じょうりゅうじ)



横浜開港当時は、イギリス領事館に充てられました。横浜大空襲で焼けてしまいましたが、当時、イギリス領事が植えた「多行松(たぎょうまつ)」と呼ばれる松があり、横浜十名木とされました。

⑪ 宗興寺 (そうこうじ)



横浜開港当時、アメリカ人宣教師で医者であったヘボン(1815～1911年)は宗興寺で診療を行っていました。多くの人がヘボンによって助けられたので、寺にはヘボンの記念碑が建てられています。

【参加特典】 展示物の見学可
ヘボン博士のオリジナルスタンプあり

⑫ 洲崎大神 (すさきだいじん)



源頼朝が安房国(あわのくに)の安房神社のご祭神をこの地にまつたとされています。元は神社前の第一京浜あたりから先が海で船着場があり、お祭りでは安房へ向け海に神輿を担ぎ入れる「御浜下り(おはまくだり)」の神事が行われていました。

⑬ 甚行寺 (じんぎょうじ)



横浜開港当時は、土蔵造りの本堂を改造し、フランス公使館に充てられました。境内には、横浜市の名木古木に指定されている、樹齢250年以上のイチョウの古木があります。

【参加特典】 「東海道神奈川宿繪圖面」の印刷紙をプレゼント (先着200名程度)

⑭ 本覺寺 (ほんがくじ)



横浜開港当時は、アメリカ領事館に充てられました。山門は日本で初めてペンキ塗装が施され、現在も唐獅子(からじし)、彫刻等(表階段側)にはうっすらとペンキ跡が残っています。山門の左脇にある月桂樹(二代目)はアメリカ領事ハリスが記念樹として植えたと言われています。

⑮ 三宝寺 (さんぼうじ)



第21世住職大熊弁玉(おおくまべんぎょく)は歌人として知られ、異人館、蒸気車など幕末から文明開化にかけての世相や人々を題材に和歌に詠いました。1975年開宗八百年を記念し高架柱上に本堂を新築、構造上特徴のある寺院となりました。

【参加特典】 展示物の見学可

⑯ 大綱金刀比羅神社 (おおつなことひらじんじゃ)



1188年に源頼朝により創建されました。かつての神奈川湊に出入りする船乗りや東海道を往来する旅人たちから信仰されていました。また大天狗の伝説でも知られています。